



ふるコンだより

発行責任者
宇部市ふるさとコンパニオンの会
会長 脇 彌生

4月29日ときわミュージアム熱帯植物館がリニューアルし「世界を旅する植物館」がオープンしました。9月からは「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」が、県内各地で行われます。ときわ公園では10月1日に第27回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)本展がスタートします。今年も話題には事欠きません。2016年下半年から2017年初夏までを、振り返ってみました。

世界を旅する植物館オープン

世界を旅し、感動する植物館をコンセプトに、原産地の植生を再現した8つのゾーンに特徴的なシンボルツリーを植栽し、世界を旅するように珍しい植物や花、果実に出会えます。

「世界中を旅しているような喜びと感動を味わってもらえる植物館。まず植物を見て、感動して、興味をもって、好きになってほしい。」と各種メディアで熱く語るのは、監修のプランターハンター西島清順氏。



星の王子様の本でおなじみの「バオバブ」のお話を覚えていますか？



バオバブの枝や葉が成長したら、こんな形になります！

アフリカを代表する樹木の「バオバブ」がセネガルから運ばれてきました。現地では樹高15m以上あったそうですが、輸送と育成のために幹、枝、根を切って樹高は7mになりました。それでも日本最大級の大迫力。

今後の成長に期待が膨らみます。その他のシンボルツリーも興味深い話がそれぞれあります。ぜひ、ご自分の目で確かめられることをおすすめします。

幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン 「古地図を片手にまちを歩こう」

山口県は萩藩絵図方(藩政に必要な地図や地誌情報収集・作成などを担った部署)が製作した優れた古地図を豊富に所有し、2012年から古地図を使った散策のイベントを県内各所で行っています。

県観光連盟は、全県的な取り組みとして、古地図の見どころなどを盛り込んだリーフレットを新たに作成し、今年9月から12月までの「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」、そして明治維新150周年を迎える2018年1月から12月に、「古地図を片手にまちを歩こう」のイベントを県内と島根県益田市の全28か所で開催し、参加者に古地図リーフレットを配布します。

宇部市でも、宇部発祥の地・上宇部を月に2度、奇数月は西、偶数月は東コースに分け、計24回実施します。古地図を持って歩けば、草鞋を履いていた時代にタイムトリップした気分も味わえ、きっと新たな発見があるでしょう。9月からは、第2・4日曜日の 9:50~12:00、琴崎八幡宮バス停集合です。

Destination Yamaguchi



いざな
維新の風が誘う。
おもしろき国 山口

幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン

デスティネーションキャンペーンは、Destination(目的地)と Campaign(宣伝)の造語。全国の JR グループ 6 社と地方自治体、観光事業者等が強かにタッグを組んで行う大型観光キャンペーンです。

期間中(9/1~12/31)、山口県の多彩な魅力を観光客の方々に存分に堪能していただくため、観光資源の磨き上げを進めています。

野外彫刻がやって来る！

第27回 UBE ビエンナーレ
(現代日本彫刻展)
10月1日~11月26日



今年は2年に一度の UBE ビエンナーレ本展の年です！

昨年秋に模型審査に入選、実物大制作に指定された18点の作品が「UBE ビエンナーレ彫刻の丘」に展示されます。

夏休み期間、7月末から随時、搬入、設置、組立作業が始まります。現場で作家さんが制作するところを見ることができるとも知れ

ません。ときわミュージアムの WEB サイトにも情報が発表されますので、ぜひ確認してみてください。

作家さんに直接会えた作品や制作過程を知った作品は格別親近感があります。帰省されるご家族や友人などとゆっくり散策しがてら、ぜひ彫刻を楽しんでください。

歴史探訪
「世界かんがい施設遺産」に登録された常盤湖の謎

常盤湖は昨年、『世界かんがい施設遺産』に登録されました。元禄期の築堤時より現在に至るまで山口県最大のかんがい用人工池であり、常盤公園の原点である湖そのものが「お宝」として再認識されることは嬉しいことです。



常盤溜井之略図 1885 (明治 18) 年
 本土手、切貫の二か所から流れた水は、草江、岬、恩田、則貞、野中、梶返へ流れます。

今年も稲作シーズンを迎え、満水の常盤湖用水は6月9日に栓免されました(今回は金曜日栓免となる)。今年は雨の降らない日が長く続き小野湖の湖底も顔を出すほどでした。そのような日でも常盤湖の源水である黒岩山湧水は、いつも通り24時間湧き出ていました。

昨年12月3日のてくてく「周防長門の国境石と黒岩観音周辺」では、常盤湖の水源域も案内。12月17日「常盤湖世界かんがい施設遺産登録記念ウォーク」では本土手、用水路の一部を案内。とくに記念ウォークは申し込み定員40名を超えキャンセル待ちとなる程で、1月の追加案内も好評でした。

何かを造るには「ヒト、モノ、カネ」が必要とよく言われますが、常盤湖築堤時の宇部村にはその全てが不足していたのです。在ったのは「地理能視」「深智」と「工夫」であり、かんがい施設のあちこちに、その知恵と工夫が隠されています。先人目線でそれらの仕事を知れば感動が深くなります、そんなガイドが出来ればと思うのです。

旧海岸線と沖の山散策

4月22日 JR ふれあいウォーク
 400年以上前に砂嘴ができた辺りは、沖の山と呼ばれ白砂青松の地でした。現在の工業地帯は、かつて石炭を掘るときに出たボタで埋め立てられ、土地が広がったのです。

昔の海岸線をたどるウォークに、予想を上回る60名近い参加申し込みがあり、急ぎよ、健脚コース

(6.5km)、ゆっくりコース(5km)に分かれて3班で出発しました。昔あった内海や外海を思い描きながら、居能と松濤園で折り返し、中津瀬神社まで、昼食つき希望者は4時間弱の行程でした。

中世の風景が残る厚東、千林尼の石畳、美しいお駒堤まで歩いてみませんか？

5月27日、てくてくまち歩きに参加者40名は恒石八幡宮に集合し、2班で千林尼石畳道まで歩きました。

千林尼(1809~1869)は、現在の西岐波大沢に生まれ、16歳で結婚しましたがすぐ離婚して出家、その後常盤池の本土手東側の庵に住んでいましたが、後年、船木逢坂の観音堂の堂主となり、近隣の道路改修や架橋に力を注ぎました。

厚東から船木へ上げる道は雨が降るとぬかるみ、難所が多かったので、千林尼は托鉢をして浄財を集め、五か所に石を敷き詰めました。



石畳道を歩く参加者

当日の参加者は、第一、第二石畳を歩き、お駒堤で休憩がてら、クイズに頭をひねり、希望者は第三石畳を一部歩いて折り返しました。「楽しかった」、「説明が解りやすかった」等の感想があり、楽しんでいただけたようです。

てくてくまち歩き、ときわ公園

9/16(土)	空間の魔術師・村野藤吾の建築 (渡辺翁記念会館開館80周年記念)	てくてくまち歩き	9:50 渡辺翁記念会館集合 12:00 同所解散
9/30(土)	幕末の白から黒へ政策転換の痕跡を歩こう(距離:約4km)	てくてくまち歩き	9:50 原ふれあいセンター集合 12:00 同所解散
10/28(土)	ときわ公園の新たな魅力発見! (距離:約2km)	てくてくときわ公園	9:50 ときわ公園正面入口集合 12:00 同所解散
11/25(土)	宇部市にもこんな美しい海岸線が! (距離:約5km)	てくてくまち歩き	9:50 東岐波ふれあいセンター集合 12:00 同所解散

■申し込み、お問い合わせ

てくてくまち歩き
 幕末維新デザインレーションキャンペーン
 てくてくときわ公園

宇部市観光推進課
 宇部市ときわ公園管理課

TEL(34)8353 FAX(22)6083
 TEL(54)0551 FAX(51)7205

